

すわみつえ通信

No.292 2023年11月20日

日本共産党鴻巣市議会議員
諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL : 596-9440 FAX : 507-4151
携帯 : 080-5039-2785
E-mail : mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



身近な議員として もっと届け
たい声がある 声をかたちに

市民の声が届く 福祉・教育優先の街づくり、命・暮らし・平和守る市政に



田間宮生涯学習セン
ターまつりに参加



また、伝承されてきた登戸ささら獅子舞も披露されました。今後、吹上（11月25日・26日）、常光（12月2日・3日）でも開催が予定されています。楽しませていただきます。

地域の「ミニユーニティー」の形成、子どもや親への支援など多くの役割をはたしています。地域の方々が取り組んでいる写真や絵画・書道の展示、音楽や舞蹈の発表が行われました。

晴天続きの週末に田間宮生涯学習センター・児童センターまつりが開催されました。公民館、児童館、図書館などの社会教育施設は住民の学習権を保障するとともに、

各地で「公民館・児童セ・ンターやまつり」が開催

11月18日（土）、鴻巣市立総合体育館で産業祭が開催されました。午前の時半の開始から、多くの市民で賑わっていました。

農業部門では「農産物や花の即売」、商工業部門では「ひな人形の絵付け教室」や「不動産相談コーナー」、「包丁研ぎ・まな板削り」など、体験型の催し物が勢ぞろいしました。抜けのような青空の下、鴻巣市の産業に触れるよい機会となりました。



すわ市議は加入するパークシティ鴻巣自治会と赤見台三丁目自治会が11月11日（土）に行つた合同防災訓練に参加しました。避難所となる赤見台第一小学校で危機管理課職員による防災倉庫の備蓄品の説明を受けました。また、鴻巣消防署職員による水消火器を使用した初期消火訓練と救命講習を受けました。避難が必要となつたときのため、こういった訓練を繰り返し行うことが必要だと感じました。



第36回産業祭開催される

赤見台で自治会主催の
防災訓練に参加

ガザ安保理決議 早期停戦へ具体的行動を

パレスチナ自治区ガザで戦闘がエスカレートしている。イスラエル軍はついに、病院にまで攻撃を加えた。常軌を逸している。深刻さを増す人道危機を受けて、国連安全保障理事会は「長期間の人道的な戦闘休止と回廊設置」を求める決議案を賛成多数で採択した。一刻も早い停戦を強く願う。戦闘開始から40日余りが経過した。戦火は終息に向かうどころか拡大する一方だ。犠牲者も増え続けている。死者はガザだけで1万1千人を超え、このうち約4500人は子どもだという。目を覆うばかりの惨状だ。

ガザを実効支配するイスラム組織ハマスの掃討を目指すイスラエル軍は、地上侵攻を本格化させ、ガザの最大の病院に多数の兵士と戦車が突入した。病院地下にハマスの司令部があると主張し、攻撃を正当化している。

しかし、病院にいるのは数千人の患者と避難民、医療従事者だ。逃げ場を失い、命の危険にさらされるのは罪のない人々である。戦争にもルールはある。病院への攻撃は、国際人道法違反と非難されて当然だ。多数の子どもが巻き込まれる惨状に突き動かされ、安保理はようやく戦闘休止の決議に至った。15カ国中、日本や中国など12カ国が賛成した。



難民キャンプへのイスラエル軍による攻撃後、搬送される負傷者=18日

ガザ情勢を巡る安保理決議案は、これまでに4回提出された。常任理事国である米国やロシアなどが自国の利害を優先し、拒否権行使するなどして全て否決されている。今回はイスラエルに理解を示す米国が拒否権行使せずに棄権した。国際社会で高まるイスラエル批判を直視せざるを得なくなり、決議案を黙認した形だ。国連総会緊急特別会合は10月下旬、人道的休戦を求める決議案を121カ国賛成で採択した。今回の安保理決議は総会決議にない法的拘束力を伴うため、国連加盟国は従う義務がある。事態の悪化から安保理決議までに、時間がかかり過ぎた感は否めない。それでも、犠牲者の増加を食い止めるために国際社会が結束したことは評価できる。問題は、具体的にどうやって戦闘を止めるかである。



イスラエル軍の空爆後、生存者を探す人々=ガザ南部ラファ=17日

イスラエルは「決議は無意味だ」と反発し、攻撃を継続する姿勢を崩していない。次は安保理決議の実効性が問われる局面だ。戦闘の休止に欠かせないのは、イスラエルに影響力を持つ米国の強い働きかけだ。これ以上の戦闘拡大は容認できないとの姿勢を明確にしなければならない。擁護する態度を変えないなら、米国への批判が高まるだろう。ハマスを支援するイランとの関係が深い中国の役割も期待される。一時的な戦闘休止を長期停戦につなげる過程では、より多くの国の関与が必要だ。中東和平を見据え、息の長い取り組みになる。（西日本新聞【社説】 11月19日付）

イスラエルによる

ジェノサイドを許すな！

攻撃中止、即時停戦を

日本共産党

テレビや新聞で報じられているとおり、パレスチナガザ地区は悲惨な状態にあります。13日も、ガザ最大のシファ病院がイスラエルの爆撃をうけ、新生児6人を含む34人が死亡したと報じられています。民間人を無差別に殺害することは、国際人道法に違反する戦争犯罪の蛮行です。イスラエルはただちにガザ攻撃を中止し、即時停戦に応じるべきです。もとより、今回のガザ危機の契機になったハマスによる無差別攻撃も許されません。ハマスは、無条件に人質を即時解放すべきです。同時に、イスラエルがハマスへの「自衛権」をたてに圧倒的な軍事力による報復など、決して許されません。ましてや、40万人が住むガザ市を完全に包囲し、ジェノサイドを行うなど、絶対に許せません。ただちにやめるべきです。

みなさん、イスラエルが国際世論を無視し、この無法な攻撃を続けているのは、アメリカ政府が、ガザ攻撃を支持、ミサイルや弾薬などの軍事的支援を行っているからです。イスラエルはガザ攻撃中止！即時停戦を！日本共産党は、11月6日、各政府、国際機関に対し、国際社会がこの2点で一致して、緊急行動をとるよう要請しました。この声を世界中に広げ、無法な戦争をやめさせましょう。

（日本共産党国会議員団 北関東ブロック事務所ニュース 11月）